

草の根の友好深める

洲本からロシアへ 青年訪問団が結団式

洲本市の姉妹都市、ロシア・サンクトペテルブルク市クロンシュタット区を訪れる「親善青年訪問団」の結団式が6日、同市役所で開かれた。メンバー13人が出席し、市民レベルの友好関係を深める決意を示した。



「クロンシュタット区親善青年訪問団」のメンバー 洲本市役所

1811年、同区ゆかりのロシア船のゴロニ艦長が幕府に捕らわれた事件で、旧五色町出身の豪商・高田屋嘉兵衛が艦長解放に向け尽力。2人とゆかりの深い両地域は、2001年に姉妹都市提携を結んだ。

昨年、提携10周年を祝って同区が学生らを洲本市に派遣したのを受け、今年は洲本市が若者らを派遣することにした。

訪問団は、太鼓グループ「高田屋嘉兵衛太鼓」や雅楽演奏者、音楽家、陶芸作家ら計15人で構成。22、29日に同区を訪問し、太鼓演奏や茶道実

演を通して互いの理解を深める。

結団式では、竹内通弘市長が「各メンバーの得意分野を生かし、両地域のつながりを深めてほしい」とあいさつ。訪問団を代表して小学校教諭の佐野和弘さん(40)が「高田屋嘉兵衛の功績を見つめ直し、草の根レベルの友好関係を築きたい」と意気込みを語った。

(長尾亮太)

神戸新聞

ロシア訪問15人 「交流深めたい」

洲本市で結団式



「交流を深めたい」と意気込む訪問団 (洲本市役所)

式が6日、同市役所で行われた。

江戸時代、幕府が国後島でロシア軍艦ディアナ号を捕らえたゴロニン事件(1811年)で、同市五色町出身の商人・高田屋嘉兵衛が解決に尽くしたことから、ディアナ号の出港地から、同区と、旧五色町が2001年に提携を結んだ。昨年、同区から学生や職員らが同市を訪れ、訪問団の派遣を要請していた。

訪問団は竹内通弘市長を団長に、大学生や生け花講師、雅楽演奏家ら計15人。22、29日、コンサートで太鼓や雅楽を演奏し、現地の催しで茶華道を披露する。結団式では、訪問団の小学校教諭佐野和弘さん(40)が「日露の理解と友情を深める一端を担いたい」と抱負を語った。